

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月1日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21320048

研究課題名（和文）奈良古梅園所蔵資料の目録化と造墨事業をめぐる東アジア文化交流の研究
 研究課題名（英文）Research of the East Asia cultural exchanges concerning manufacture of Chinese ink, depends on cataloging of books and documents in the possession of Kobaien in Nara.

研究代表者

大谷 俊太 (OTANI SHUNTA)

京都女子大学・文学部・教授

研究者番号：60185296

研究成果の概要（和文）：古梅園文庫資料の悉皆調査により、資料の書誌事項のデータベース化を行い、古梅園文庫所蔵和書目録・一枚物目録・和刻本目録を作製した。資料のうち、古梅園の公式記録である『古梅園記録』・『古梅園家譜』・『大墨御覧記』、商家としての活動を示す『古梅園墨価録』、造墨関係の『墨製問答之記録』、歴代当主の文事に関わる漢詩文・連歌・俳諧資料などの重要資料の翻刻あるいは解題を作成し、墨をめぐる和漢にわたる文化ネットワークの実態解明のための基礎資料整備を行った。

研究成果の概要（英文）：We investigated the documents literature of all the Kobaien correction, and make a database about bibliographic material. As a result, The catalogs of Kobaien correction on early Japanese works, leaves and Chinese works printed in Japan were prepared. Also, among the documents, Synopsis and transliteration of important materials were maiden as the fundamental data for clarify the actual situation of the East Asia cultural exchanges. For example, such as “official diary of Kobaien”, “Kobaien genealogy”, “Record of show the big ink to Edo shogunate and the imperial court”, “Price list of ink maiden by Kobaien”, “Record of questions and answers about how to make ink” and the works by former head of the Kobaien.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2010年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2011年度	2,000,000	600,000	2,600,000
年度			
年度			
総計	6,500,000	1,950,000	8,450,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：近世文学・墨譜

1. 研究開始当初の背景

奈良の墨匠、古梅園は、江戸初期の創業以来三百五十年、国内外に知られる墨造りの老舗である。歴代当主のうちには、墨造りの研究に勤しみ学問を好んだ者も少なくなく、特に、五代元規は、京都堀川の伊藤仁斎・東涯

父子の古義堂に学び、六代元泰は『古梅園墨譜』を刊行し、また、長崎にまで赴き、製墨法について寄留の清国人に質しもした。七代元彙も『古梅園墨譜後編』を刊行するなど、元規・元泰・元彙三代において、古梅園は墨造りのトップ・ブランドとしての地位を確立

した。その江戸時代前期から中期にかけての元規・元泰・元彙三代を中心に形成されたとされる蔵書群が、松井家古梅園文庫として秘蔵され約二百五十年の歳月を経過し、今に至る。此度、松井家からの古梅園文庫全体の調査依頼を機に調査を開始し、千数百点に及ぶ資料の存在を確認した。造墨関係文書・墨譜関係文書・歴代当主の漢詩文の草稿・歴代当主と交わりのあった歌人・俳諧師・狂歌師・儒者・僧侶・画家などの詠草・書翰などの文書類、また、古梅園が京都の出版書肆柳枝軒から刊行した『古梅園墨譜』などの版木も全て揃いで伝存する。本業に関わる古墨の伝来品と並んで、当文庫は、墨業一筋に励み、今なおトップ・ブランドを維持する松井家・古梅園の、まさしく根幹を形成した文献・書籍と言える。

『古梅園墨譜』は、かつて「近世に刊行された書物のうち、最も好事の粹を尽くしたものの一つと評するに足りる」（日野龍夫「考証癖と文房趣味」、『徂徠学派』昭和50年刊、所収）と言われたように、江戸時代中期の文化を体現する文物の一つと言える。しかしながら、江戸期における漢文学の盛行に比べて、近世漢文学の研究が立ち遅れている中で、『古梅園墨譜』についても、以降特に言及されることもなく過ぎた。文房趣味は中国・朝鮮など海外の文化と密接に関わる。本研究は、これまでの近世漢文学史の闕を埋めるのみならず、製造業であり商家であり文筆に携わる家である古梅園、その海外にまでつながる文化ネットワークの実態の解明を、直接的で具体的な一次資料を基に行うものである。

2. 研究の目的

(1) まず古梅園文庫資料の悉皆調査を行う。墨の製造・販売業としての活動、および文化活動の記録、それを支えた知識・教養の具体的あらわれとしての書物・資料の総体を捉えることを目的とした。

①古梅園の公式記録とも言うべき『古梅園記録』・『古梅園家譜』『由緒書』・『大墨御覧記』などの記録、あわせて『京日記』『東都日記』『崎陽日記』や書状類などの周辺資料の調査と整理を行い、商家としての古梅園の活動の実態を押さえる。

②『名墨新詠』『古梅園墨譜』などの古梅園自身による刊行物の調査と整理を行う。あわせて、それらに寄せられた詩文の原資料やそれらの作者との交流を示す資料を確認する。

③五代元規・六代元泰による松煙墨復活に関する資料、長崎に赴き墨の製法について清人に質した記録などを含む造墨関係資料の調査と整理を行う。

④古梅園歴代の漢詩文集や狂歌・俳諧などの著作を整理し、歴代の文事の実態を明らかにする。

(2) 以上の調査を通じて、造墨という家業の実態を明らかにするとともに、文雅なるものと密接に結びつく造墨という家業に従事してきた松井家歴代の、和漢にわたる文事の実態が実証的に解明されることになる。

それは即ち、奈良を中心に京都・大坂・江戸そして長崎、さらには中国・朝鮮・琉球にまで繋がる、墨をめぐる文化ネットワークの実態を浮かび上がらせることになるであろう。このような、製造業・商家の文化活動・情報発信の事例は珍しく、その実態解明の研究は、これまでの国文学研究の枠を越えて、近世産業史・日中文化交流史・町人文化史など、広く近世期の文化的事象全般に関わる研究として、貴重な事例になるであろう。

3. 研究の方法

(1) 古梅園文庫（奈良市椿井町）に赴き資料の閲覧・収集を行い、書誌カードに書き入れる。それをデータ入力し、データベース化する。

(2) 必要に応じて、「日本古典籍総合目録データベース」などと突き合わせ、資料の成立年・内容の分類・伝本の多寡などを調査し、データベースに書き込みを行う。

(3) データベースの記述について、文庫を訪れ、原資料と照合し点検作業を行う。

(4) 資料を、和書・一枚物・和刻本に分け、それぞれに適した分類・排列を考え、並べ替えを行い、その上で、必要事項を選び出し、分類目録を作成する。

(5) 資料の中から重要と思われる資料を選定し、解読・研究を行い、必要に応じて、対照すべき他の伝本の調査も行い、貴重資料をリストアップする。

(6) 貴重資料の解題を作成し、必要に応じて翻刻を添え、解題・資料集を作成する

(7) 古梅園所蔵の古墨（できれば故宮博物院所蔵の古墨）と文献資料との突き合わせを行い、墨をめぐる東アジアにおける文化ネットワークの実態を考察する。

4. 研究成果

(1) 古梅園文庫所蔵文献資料の調査を行い、書誌データベースを作成した。

(2) 上記書誌データベースの分類・排列を行った。和書については、『改訂内閣文庫国書分類目録』を参考に、古梅園文庫の実情に合わせて「古梅園関係書」を別立てにするなど適宜改編を加え、和刻本漢籍については四庫分類に従った。

(3) 和書・一枚物・和刻本漢籍について、上記データベースから必要な記述項目を選択した上で、「古梅園文庫所蔵資料目録」を作成し、書名索引を付した。（研究成果報告書1〔目録編〕）

(4) 古梅園文庫所蔵のうち重要資料を選定

し、調査・研究を行った。その結果、25件の資料の翻字を行い、約140点の資料について解題を作成し、「古梅園文庫所蔵 資料・解題編」を作成した(研究成果報告書2〔資料・解題編〕)。

(5)『古梅園家譜』『由緒書』など系譜類の資料から、三代目道寿の時代から製墨を業とし、梅園を作り古梅園と称したことが判明するなど、古梅園の歴史に関する多くの新知見が得られた。

(6)『古梅園記録』『大墨御覧之記』、古梅園製の松煙墨に「千歳松」の勅銘拝領の一件に関わる資料などから、朝廷・幕府への墨の献上・納入の具体的経緯、勅銘拝領に百拙元養の仲介があったことなどの実態を捕捉することができた。

(7)古梅園歴代の文学活動について、具体的な事例を確認した。五代元規は自身の詩集『東庵詩集』を刊行し、六代元泰は『煙雨新艸』などの漢詩集をまとめ、また、長江の名で俳諧を嗜み、貞文の名で狂歌もものし、七代元彙も鷺溪・三千里の名で俳諧・狂歌を残し、孝子顕彰の文章などを作文したりした。

(8)元規による『古梅園墨譚』『墨法叢話』、元泰による『延喜式墨法私考』『墨製問答之記録』、元彙による『朝鮮学士朴敬行江墨法問』などの歴代の造墨法の研究に関わる資料に加えて、膠・油の調達に関わる文書類などの整理も行うことで、造墨の実態についての立体的把握を可能とする基礎資料の整備を行った。

(9)製墨に関する外国人との交流のみならず、元規の『韓客唱和編』『華客唱和稿』、元泰の『元泰清人應酬集』のように、作品レベルでの外国との文化交流の具事例を確認した。

(10)『古梅園墨譜』『名墨新詠』『大墨鴻壺集』『古梅園墨譜後編』の古梅園の出版物の諸版を確認し、寄せられた詩文の一部については 原本や書状を確認した。

(11)京都堀川古義堂の伊藤東涯、当時舶来の思想であった黄檗宗の高泉・百拙、大坂懐徳堂の中井竹山、古梅園の墨が靈元上皇に献上された際の狂歌が知られる油煙齋鯛屋貞柳、大坂今宮の俳諧師小西来山、南都の俳諧仲間の無名庵古道などとの、和・漢の文化に渡ってのネットワークの存在を確認した。

(12)地元奈良の俳諧資料の整理や『寧楽集』『南中紀勝』などの漢詩集が確認され、近世期の奈良の文学について知見を得た。

(12)『村庵稿』『諸儒要覧』『瑞林集』『一峰雙詠』『槩山集』『耶山集』『空中天鼓』などの五山や黄檗関係の漢詩文集などの稀観書を確認した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計10件)

- ① 松尾良樹・的場美帆、『唐人墨製問答之記録』—「古梅園造墨資料」翻刻と解題(2)一、古代学、査読有、4、2012、67-87
- ② 松尾良樹・的場美帆、『墨法叢話』—「古梅園造墨資料」翻刻と解題(3)一、<平成21年度～平成23年度 研究成果報告書>異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業・文化財に含まれる膠の自然科学的分析による古代文化史および技術史の解明、査読無、2012、78-108
- ③ 松尾謙兒、『古梅園墨譜序和解』—「古梅園造墨資料」翻刻と解題(4)一、<平成21年度～平成23年度 研究成果報告書>異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業・文化財に含まれる膠の自然科学的分析による古代文化史および技術史の解明、査読無、2012、109-119
- ④ 堀川貴司、翻刻 慶應義塾図書館蔵『續新編分類諸家詩集』付・他本による補遺—『新選集』『新編集』研究その二一、斯道文庫論集、査読無、46、2012、351-397
- ⑤ 大谷俊太、後水尾院・後西院述、近衛基熙記、諸道聞書『御手扣』解題と翻刻、女子大國文、査読有、Vol. 150、2012、pp. 89～130
- ⑥ 鈴木広光、開化の軋み—揺籃期の日本語タイポグラフィ—、文学隔月刊、査読無、12-3、2011、154-168
- ⑦ 鈴木広光、嵯峨本『伊勢物語』慶長十三年第二種本の活字と植字組版について、汲古、査読有、59、2011、25-30
- ⑧ 堀川貴司、『覆篋集』について—室町時代後期の注釈付き五山詩総集—、文学隔月刊、査読無、12-5、2011、39-52
- ⑨ 松尾良樹・的場美帆、『歴代古墨簿』—「古梅園造墨所蔵資料」翻刻と解題(1)、古代学、査読有、3、2011、63-88
- ⑩ 服部温子、『若葉の比』解題と翻刻、人間文化研究科年報、査読有、2011、26、33-41

[学会発表] (計4件)

- ① 大谷俊太、陽明文庫所蔵近衛基熙聞書『御手扣』について、和歌文学会関西例会、2011・7・9、神戸女子大学
- ② 鈴木広光、印刷の思想—東と西、東京大学グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター」プロジェクト「近代東アジアのエキリチュールと思考」、2011・1・21、東京大学
- ③ 松尾良樹、古梅園の造墨と文化交流、平城遷都 1300 年国際書画友好交流展、2010・7・18、奈良県文化会館

- ④ 松尾良樹、中国における明墨・清墨の収蔵と研究、シンポジウム「墨」 古代史・環境史
プロテミオクス研究創成事業本部、2010・6・5、奈良女子大学

〔図書〕(計2件)

- ① 堀川貴司、五山文学研究 資料と論考、笠間書院、2011、344頁
② 堀川貴司、書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む、勉誠出版、2010、263頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大谷 俊太 (OTANI SHUNTA)
京都女子大学・文学部・教授
研究者番号：60185296

(2) 研究分担者

松尾 良樹 (MATSUO YOSHIKI)
奈良女子大学・古代学学術研究センター・特任教授
研究者番号：20127426
鈴木 広光 (SUZUKI HIROMITSU)
奈良女子大学・文学部・教授
研究者番号：70226546

(3) 連携研究者

堀川 貴司 (HORIKAWA TAKASHI)
慶應義塾大学・斯道文庫・教授
研究者番号：20229230
福井 辰彦 (HUKUI TATSUHIKO)
立命館大学・文学部・専任講師
研究者番号：30378492
中島 貴奈 (NAKAJIMA TAKANA)
長崎大学・教育学部・准教授
研究者番号：10380809

(4) 研究協力者

的場 美帆 (MATOBA MIHO)
奈良女子大学・古代学学術研究センター・研究員
松尾 譲兒 (MATSUO YUZURU)
名古屋大学・文学研究科博士後期課程
服部 温子 (HATTORI ATSUKO)
奈良女子大学・人間文化研究科博士後期課程
早川 由美 (HAYAKAWA YUMI)
奈良女子大学・人間文化研究科博士後期課程
畑中さやか (HATANAKA SAYAKA)
奈良女子大学・人間文化研究科博士後期課程
比嘉 舞 (HIGA MAI)
奈良女子大学・人間文化研究科博士後期課程

井上 愛 (INOUE AI)
奈良女子大学・人間文化研究科博士前期課程
大石真由香 (OISHI MAYUKA)
奈良女子大学・古代学学術研究センター研究員